



議会だより

ピッパリ

TEL (0164) 68-7011 議会事務局 FAX (0164) 62-1278

北海道苫前郡羽幌町南町1番地の1

目次

6月定例会..... P2~P3	一般質問(磯野氏)..... P4
一般質問(金木氏)..... P5	総務産業委員会報告..... P6
文教厚生委員会報告..... P7	TOPIC議会..... P8



「水産実習風景」(羽幌町立天売高校にて)(平成26年6月20日) ※写真提供 天売高校

行動する議会をめざして!

ぜひ議会の傍聴にお越し下さい

次回の定例会は9月です

- 4月
 - 7日 議会広報特別委員会
 - 22日 文教厚生常任委員会
 - 25日 第2回羽幌町議会臨時会
- 5月
 - 9日 中心市街地活性化等調査研究特別委員会
 - 9日 総務産業常任委員会
 - 13日 総務産業常任委員会
 - 16日 第3回羽幌町議会臨時会
 - 21日 文教厚生常任委員会
- 6月
 - 9日 議会運営委員会
 - 12日~13日 第4回羽幌町議会定例会
 - 12日 医療問題調査研究特別委員会
 - 12日 議員全員協議会
 - 13日 議会運営委員会
 - 13日 議会広報特別委員会

議会日誌

第4回定例会

平成26年6月12日～13日

- ◎報告－1件 ◎議案－7件
- ◎推薦－1件 ◎発議－2件
- ◎意見案－3件 ◎一般質問－2名



定期監査報告

羽幌町監査委員により5月27日から28日まで、焼尻支所、焼尻小学校、天売小・中学校、天売高等学校、天売支所の定期監査を行った。財務に関する事務執行が適正かつ効率的に行われているかを関係書類・帳簿等に基づき確認と聞き取りを実施した。適正に執行したと認められた。



〔条例改正〕

羽幌町手数料条例の一部を改正する条例

戸籍の電算化に伴い磁気ディスクで調製された戸籍等に記録されている事項等を交付することになるため。

〔協定締結〕

契約予定価格が5000万円を超える契約のため、議会の議決が必要。

汚水処理施設共同整備事業前処理施設建設工事委託

- ・契約方法…随意契約
- ・契約金額…7億2800万円
- ・契約相手…日本下水道事業団

〔財産の取得〕

契約予定価格が1500万円を超える財産の取得のため、議会の議決が必要。

※土地の購入は5000㎡以下のため、議決は不必要。

㈱ハートタウンはぼろ 所有の建物の取得

- ・目的…中心市街地活性化の為

- ・取得予定価格…1億3723万円
- ・取得相手…㈱ハートタウンはぼろ

無記名の投票により、賛成5票・反対5票で、賛否同数となり議長裁決により可決成立した。



一般会計補正予算

■債務負担行為補正

- ・焼尻めん羊牧場指定管理料期間…平成27年度～30年度
- ・限度額…5700万円

- ※平成26年度は単年度で1400万円の指定管理契約
- 歳入歳出予算の補正

- うち、ハートタウン関連予算 3588万円
- 2722万円

〔歳入〕

- ・町有建物貸付料(テナント料) 1543万円
- ・商業複合施設テナント負担分燃料費及び光熱水道費 1179万円
- (共益費)

〔歳出〕

- ・施設町有化に伴う維持管理等関連経費 2499万円
- ・まちづくり事業基金 223万円

この他、焼尻めん羊牧場管理器具購入費(505万円)等が計上された。

無記名の投票により、賛成5票・反対5票で、賛否同数となり2度目の議長裁決により可決成立した。



意見

- 泊原発の段階的運転停止と再生可能エネルギーへの転換を求める意見書
- 地方財政の充実を求める意見書

- 道州制導入に断固反対する意見書



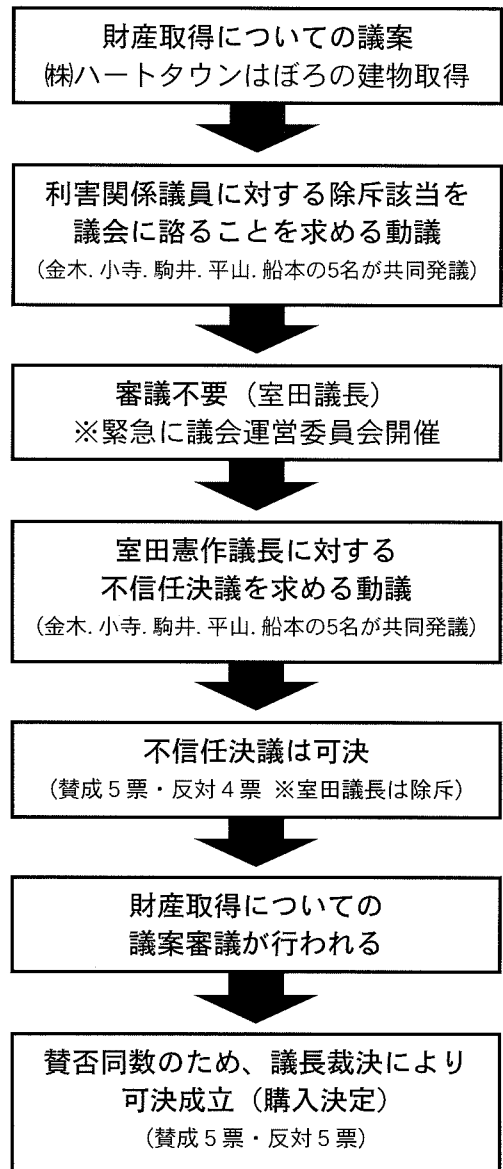
同意

羽幌町農業委員会 委員の推薦

羽幌町農業委員会委員の任期満了に伴い、濱野孝氏を委任した。

ハートタウン施設の「財産取得」 採決では賛否同数、議長裁決で可決

議会での審議過程



除斥を議会に諮る動議不認定

「財産の取得について」の議案審議の冒頭、本議会の近日まで(株)ハートタウンはぼろの役員であった議員に関して、運営基準第62項の規定による「利害関係議員に対する除斥の可否を議会に諮ること」を求める動議が5名の議員連名で提出された。これに対し、室田議長は「関係機関や法律の専門家等の意見を参照し、『疑義はなし』との結論に至っている」として、「審議不要」と判断し、動議は認められなかった。

議長判断不服で議運開催
この議長の判断に対して、「疑義があるかどうか、議会運営委員会や議員全員協議会

でも一致はみられなかった以上、本議会で諮るべきである」との発言があった。こうした事態に、緊急に議会運営委員会が開催されるに至った。

議運での審議の結果、「議長の判断に委ねる」と船本議運委員長が結論を報告。結果、議長は再度「審議不要」と判断した。

「議長不信任」動議提出可決
動議の成立を認めなかった議長の判断に対して、同じく5人の議員から「議長の立場については、あくまで中立的なものではなければならず、会議においては不偏不党、公正さが求められる」として、「室田議長に対する不信任決議(案)」が提出された。この

動議について、議会は議事日程に追加し審議することに同意。審議では室田議長は除斥され、代って熊谷副議長による議事進行となり、無記名投票の結果、不信任決議が可決された。しかし、決議には法的拘束力がないため、室田議長による審議が続けられた。

予算と同じく「財産取得」も
ハートタウン施設を買い取る「財産取得」議案も3月定例会に上程された予算案と同様、採決では賛否同数となり、議長裁決で可決された。

動議を含め、1時間40分という異例の審議となった。

「財産取得について」の討論
＝ 反対討論＝

【金木】あくまで民間が行う

事業として立ち上げたもの。自由な商業活動を阻害する。

【平山】住民説明会では圧倒的に反対で、住民の意思を無にしてはならない。

【小寺】十分な説明責任を果たしていないうちの買い取りでは、町民の合意は得られない。3月以降の会社の取り組み方でも多くの疑念がある。

【駒井】除斥について疑義がある。将来への見通しが不安定である。

＝賛成討論＝

【磯野】論議は十分にされた。予算案も通っており、粛々と買い取っていくべき。

【橋本】中心市街地、まちづくりのために重要な施設。

■除斥(じよせき)とは

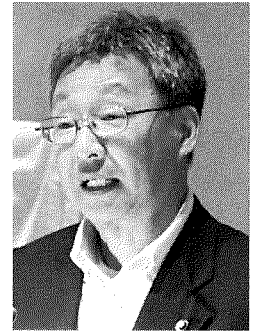
地方自治法第117条「普通地方公共団体の議会の議長及び議員は、自己若しくは父母、祖父母、配偶者、子、孫若しくは兄弟姉妹の一身に関する事件又は自己若しくはこれらの者の従事する業務に直接の利害関係のある事件については、その議事に参与することができない」

■議長不信任決議とは

自治体の長の場合と異なり、決議には法的拘束力はない。

問

安全な自転車観光コースを整備して 大きなセールスポイントに



磯野 直議員

答

不在地主が多く、道路拡幅は難しい 道路改良で安全性の向上と注意を喚起

離島観光の現状とその対策
【磯野】現在、島を訪れる観光客が島を巡り、その自然を楽しむための手段としては、観光バスや観光ハイヤー、観光船、自転車、徒歩などがあるが、その中で自転車の利用が年々増加している。

そういう中で毎年のように事故が起きるといのは離島観光にとって大きなマイナスであり、一刻も早い対応が望まれる。

現在焼尻島では、道道と町道を通って島を巡るコースを推奨しているが、このコースでの事故が過去に幾度も起きており、そのたびに行政側にもその対策を要請してきたが、根本的な対策がされていない。もともと、この道路については観光のための自転車の通行は想定していないところから道幅も狭く歩道の設置も一部しかない。その道路わきに設置されている側溝には蓋もなく、春先になると草に覆われてしまい道路からは全く確認できず危険な状況にある。そうした中、島の今後の観光を考えたとき、この自転車による観光をもっと推し進めるべきと考える。北海道とも連携

し、早急に自転車道路を整備して、全国的にも脚光を浴びるような自転車観光コースを完成させ、将来の観光の大きなセールスポイントにすべきと考え、以下の質問をする。

事故を未然に防ぐには北海道と羽幌町が連携をした抜本的な対策が必要と考えるが。

【町長】焼尻島の恵まれた自然をゆっくりと時間をかけて満喫したいという個人志向の高まりから、自転車を利用した観光の人气が高まっている。一方で道道焼尻島線では過去に自転車での路外逸脱や側溝への脱落事故が報告されている。原因としては、下り坂でカーブが連続し逸脱する場合や自動車とすれ違う際、端により過ぎて側溝へ脱輪するなどが主なものと考える。このため、道道を管理する北海道には「留萌中部北部社会資本整備推進会議」において、その必要性・緊急性を説明し改修要望を継続的に行っている。その結果、かねてより設置を要望していた鷹の巣園地付近の車両退避所は現在施工中であり、道路側溝についても6月より現地調査が開始される予定である。またそれまでの

対策としては、啓発看板の増設するとともに、側溝周辺の草刈りも2回ほど予定している。今後は、この地域を自動車で通行する島民のドライバーに対して、歩行者や自転車の方々の安全に十分配慮して運転されるよう啓発を行うとともに、北海道と密接な連携を図り、各種工事等の進捗状況を確認しながら要請活動を積極的に行っていきたい。



注意喚起のための看板

対策としては、啓発看板の増設するとともに、側溝周辺の草刈りも2回ほど予定している。今後は、この地域を自動車で通行する島民のドライバーに対して、歩行者や自転車の方々の安全に十分配慮して運転されるよう啓発を行うとともに、北海道と密接な連携を図り、各種工事等の進捗状況を確認しながら要請活動を積極的に行っていきたい。

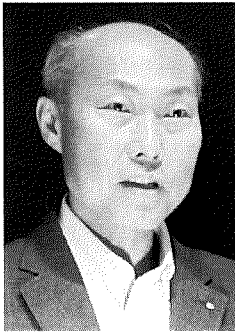
【磯野】自転車コースの整備では北海道と羽幌町の相互理解の上で幅員の拡幅や歩道の設置等が必要と考えるが。

【町長】これまで道道の拡幅については幾度となく北海道に要請しているが、現状の拡幅用地については不在地主が多く用地未確定のことから、道路幅員の拡幅や自転車コースの設置については難しいと考えている。今後は既設道路に改良を加え安全性の向上を図るとともに、自転車利用者に注意を喚起する看板などを増設し、旅行者に安心と安全を提供できるよう努力したい。

【磯野】自転車コースの整備に伴い、沿道の景観を損なう老朽化した廃屋の除去や海岸漂着ゴミなどの回収についても対策を講じるべきではないか。

【町長】焼尻島は青く輝く海と豊かな大自然の中で、花や鳥、綿羊を眺めながら、のどかな景色を楽しむことができる島であり、景観を阻害する廃屋や放置車両、廃棄物などへの対応は必要と考えている。廃屋などへの対応は、所有者との問題もあり大変苦慮している。放置車両については、今年度約30台を回収している。海岸漂着のゴミについては、これまでも島内では観光協会や焼尻小中学校の生徒が中心となり、ゴミの回収を行う中で景観を維持している。今後は焼尻島の恵まれた自然環境を守るためにも、島民の意識啓発を含め、生活環境や景観向上に努める。

金木直文 議員



問 役場庁舎改築の検討はどうなった

答 庁内検討チーム設置し、あり方を2年後に

問 「羽幌で産みたい」の声強い

答 分娩再開は難しい 妊婦支援は課題

【1】財政状況と課題

【金木】今後、多額の予算が必要となる事業が控えている。

(1)羽幌町の財政における収支、町債費、基金等について、この5年程度の推移や傾向は、どのようなであったか。

(2)「第6次羽幌町総合振興計画」に基づく27年度からの「実施計画」についての検討状況、大きな事業として予定されているものは何か。

(3)実施計画実現に向けた予算確保への見通しや考え方を示してほしい。

【町長】(1)歳入の半分以上を占める地方交付税は増加傾向にあり、25年度は20年度比7%増の約32億8000万円。町税は7%減の7億1600万円。全体では歳入が歳入を下回り、毎年1億円以上の剰余金を生じている。地方債は、

全会計で20年度残高約115億円が25年度で約99億円と減少している。基金は全体で、20年度の約33億円が25年度で約38億円となっている。町財政全体の推移では、歳入において国の地域活性化対策としての臨時交付金による収入の増加により確保が図られ、歳出においては人件費を始めと

する歳出抑制や計画的な事業実施により公債費等が減少、基金の確保が図られている。

(2)現在、今年度事務事業評価に係る調査の作成を進めており、その際に28年度予定事業費の提出を受け、作業を進めている。事業費の大きなものでは、「羽幌小学校改築事業」「ミックス事業(2年次)」「産業廃棄物処理場整備に係る補助金」のほか、下水道や公営住宅の整備、公園や橋梁の長寿命化計画に基づく各種施設の整備に着手する予定。

(3)公共施設マネジメントの導入について検討していたところだが、総務大臣通知や指針を受け、28年度までに計画策定、29年度からの10年間の計画とする。

【金木】役場庁舎の改築についての検討状況は。

【町長】庁舎の役割を考えると災害時での対応で本部を設置するなど、大きな役割がある。今検討チームを作って話し合いに入ったところである。

【2】妊産婦への支援

【金木】道立羽幌病院で産科対応ができていないため、羽幌町や近隣町村では妊娠、出

産への不安が続いている。

(1)町内の妊産婦が出産している医療機関は広域にまたがると思われるが、その地域分布はどうなっているのか。

(2)道立羽幌病院における産婦人科の開設と分娩対応への見直しはどうか。

(3)遠隔地の産科医療機関で出産を希望する妊産婦に対して、出産前の通院や出産に係る支援は考えられないか。

【町長】(1)当町における過去5年間の平均出生数は51人。25年度の39件では、留萌市立病院22件、旭川地区10件、札幌地区3件、帯広、名寄の地区3件、青森県1件。

(2)現在は、週1回の出張医師による婦人科のみ。分娩対応には、設備的には支障がないものの、人材の確保は困難を極め、再開は非常に難しい状況。

(3)妊産婦へは14回の健診費用への助成、精密検査が必要となった場合の制度活用、離島地区の方へはフェリー運賃と宿泊費の支援を行っている。出産に際しては「出産育児一時金制度」により、一定の金額が支給される。地域性や妊婦の実家の所在地、家族構成、家庭環境、初産婦か経産婦か、

医療機関の設備・体制などの要件を捉え、関係者において十分に勘案され、選択していると思われる。個々の意向が大きく反映されるものであり、子育て支援と一体となった施策の展開を見据え、課題とさせていきたい。

【金木】最近出産を経験された方は「やはり羽幌で産めるなら羽幌で産みたかった」健診で留萌へ通うのに、だんだんお腹が大きくなってくると車の振動が小さくなってきた」と言っていた。分娩再開の要望も決して忘れてはならない問題だ。近隣の自治体と話し合ったり、道に要望したりしてきたのか。

【町長】道は留萌を拠点として設けているが、診療科目の充実も並行しながら要望活動を続けてきている。

【金木】支援の施策として、「出産準備金」や「通院支援助成」などの財政的支援、「ママさんヘルパー派遣」などの心身の支援などに取り組んでいる自治体もある。検討を。

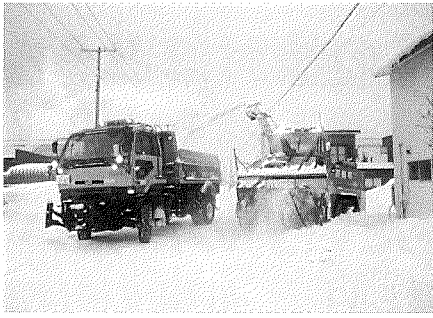
【町長】事細かく、深く考えていかなくはならない。施策の一元化も含めて、見直しながら整理していきたい。

総務産業常任委員会

(5月9日開催)

◆除排雪事業の実施

担当課から、平成25年度までの除排雪事業の実績について説明を受け、協議を行った。主な協議内容は、毎年少しずつ契約金額が高くなっていく要因が、燃料価格、労務単価の上昇等によるものであること。契約方法については、国、道の単価を基に積算していることなど。



排雪作業の様子

今後の契約金額の算定方法について見直しを図る必要がある、現行での実績と、他町

村の事例等を集めたうえで、平成26年度の契約前に再度協議の場を設けるとして協議を終えた。

◆港湾アクセス道路

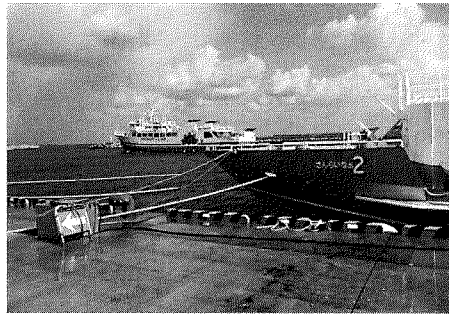
担当課から、港湾アクセス道路4案(現行港湾整備計画のもの)についての説明、本年度、開発建設部で港湾内の静穏度調査を実施する情報を受け、協議を行った。



現在のアクセス道路

主な協議内容は、静穏度問題、アクセス道路については以前から二転三転しながら全然前に進んでいない。漁協、

漁業者、フェリー会社等利用者との協議を重ね、並行して国とも協議を進め決断し、順序立てて一つずつ実施していかなければ進まない等で、継続協議として協議を終えた。



静穏度対策が急がれるフェリー岸壁

◆町道及び橋梁の耐震・老朽化

担当課から、平成25年度策定、2月に国へ補助申請した橋梁長寿命化計画(平成27、36年度の修繕計画)について説明を受け質疑を行った。

主な質疑内容は、修繕着手に係る優先順位の決め方について、早急な対応が必要な順A～Eに区分し、1・2級町道を優先して各橋の修繕時期

を設定したとの説明を受け協議を終えた。

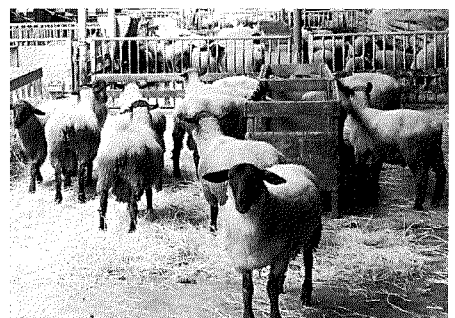
(5月13日開催)

◆焼尻めん羊牧場の管理

担当課から、平成26年度から平成30年度までの焼尻めん羊牧場指定管理に係る事業計画、本年度の各町補助事業及びPR事業等について説明を受け協議を行った。

4月現在、飼養しているのは725頭で、うち生産羊は208頭。26年度の収支計画では、収入が1671万円に対し、支出が3091万円、指定管理料1400万円となっている。

主な協議内容は、各機械設備等に関する老朽化状況の洗い出し、飲食店等購入補助並びに地元消費奨励補助については、提供時期及び需要に見合った提供量確保の検討等、PR事業については、出荷可



牧場畜舎内のめん羊

エネルギーを踏まえPR先も含めた見直し等。

本年度は、離島での議員視察が計画されており、現地を見た上で改めて検討するということで協議を終えた。

■議会閉会中における継続調査及び審査事項

(6月～9月)

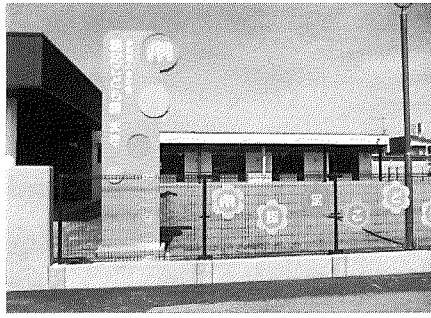
- めん羊の牧場の管理
- 公共施設
- マネジメント計画策定
- 離島振興
- 緊急を要する事項

文教厚生常任委員会

(4月22日開催)

◆「認定こども園・まき」 施設視察見学

園長他施設職員の説明により、施設見学を実施した。



認定こども園・まき

況について説明を受け協議を行った。

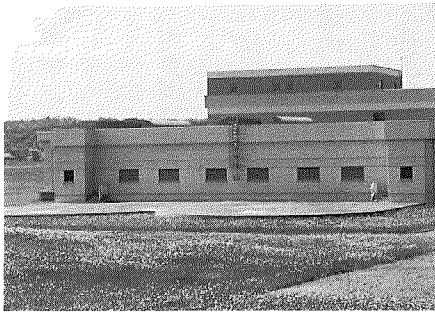
主な協議内容は、平成28年度までに補助採択要件の水洗化率に達しなかった場合、補助金を返還しなければならぬことになるのか。また、その場合の3町村の負担について話し合われているのか等に対し、補助採択要件の水洗化率に達するよう努力する前提で補助の採択を受けたもので、水洗化率に達しなかった場合の補助金返還の確認は現時点ではない。

また、補助金を受けられなかった場合の3町村の負担に

◆ミックス(汚水処理) 施設共同整備)事業

担当課から、平成26年3月末に実施設計の詳細が完成。

当初見込んでいた工事費5億5000万円から7億2800万円に増額となった理由、増額となった額での財源及び財政計画、水洗化率の進捗状



羽幌浄化センター

については、当初に3町村の負担率を決定するなかで、その場合は3町村で負担し合うことで協議されている旨の回答を受けた。

意見としては、補助採択要件の水洗化率に達するよう、努力するしかない、補助金返還額と、取り壊し予定の古い町営住宅の接続にかかる費用との比較検討もすべき、合併浄化槽を接続している人にも、下水道接続を推進する努力をしていかなければならないなどがあり、担当課から努力していく旨の回答を受けて協議を終了した。

◆羽幌町住宅改修 促進助成事業

担当課から、本年度40件分の予算枠に対して56件の補助申請があった。

消費税の増税による消費の落ち込み、過去に何度も抽選で外れてきた人もいる。

それらを踏まえ4月25日召集の臨時会で56件全てに補助できるよう補正したいとの説明を受け協議を行った。

主な協議内容は、過去に抽選から外れて補助を受けない

で改修した人、抽選のルールだから申請を見合わせた人などもおり、申請を受け付けてからのルール変更は、公正公平性に欠ける。

こうした意見に対し、今回については、説明したとおり理由で申請者56件全てに補助できるよう補正したいとの回答を受けた。

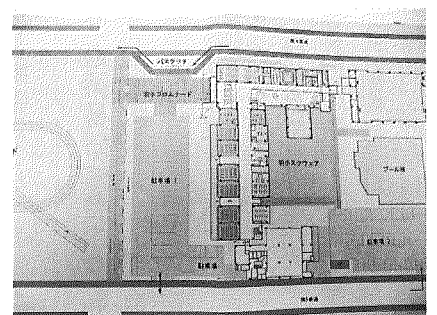
また、来年度以降については早めにルールを設定すべきと、委員、担当課で確認し合い協議を終了した。

◆(5月21日開催) 羽幌小学校建替事業

担当課から、平成26年3月に完了した羽幌小学校建替事業の基本設計及び平成27年7月着工、平成29年6月新築、校舎全面使用(交付金前倒し)の場合は全体が2ヵ月早まる)等、今後のスケジュールについて説明を受け、協議を行った。

主な協議内容は、設備と各室の位置関係、非常口及び防火扉の位置、手洗いの数量及び給食の動線等について確認した。

実施設計での変更は詳細部



建替え基本設計での校舎配置図

分のみとのことで、今後の動向による継続調査として協議を終了した。

■議会閉会中における 継続調査及び審査事項

(6月～9月)

- ・ 羽幌小学校建替事業
- ・ 産業廃棄物処分場
- ・ 就学前施設のあり方
- ・ 公園施設長寿命化計画
- ・ 緊急を要する事項

過疎に挑む「地域おこし協力隊」

事業の先進地 喜茂別町を視察

羽幌町議会は7月3日、平成22年に10名の地域おこし協力隊を採用し、その多くが地元に着した後志管内喜茂別町を視察しました。上川管内愛別町議会と共に、合同視察となりました。

道内初の「水の郷」百選に札幌市から中山峠を越え、と喜茂別町。羊蹄山や尻別岳を望み、町内を流れる尻別川や喜茂別川などは清らかで、北海道で最初に全国「水の郷」百選に指定されました。人口は2、361人。



喜茂別町役場

いきなり10名の協力隊人口減少が続く、65歳以上の高齢化率は38%（26年5月末）、32年には40%を超える

と予想される喜茂別町では、過疎対策が大きな課題となっていました。

22年度から取り組んだ「地域おこし協力隊」事業では、一挙に10名を採用。家族も含めると12人の町民が増えたこともあり、前年度比の人口増加率では全道2番目となりました。10名という2ケタの協力隊を採用した理由について、菅原章嗣町長は「1、2人では行政経験豊富な職員のなかでうずもれてしまう。それよりも、5つある集落に2名ずつ配置し、住民とのつながりを持ってもらうことを重視した」と言います。



あいさつする菅原町長

高齢者農家や生活支援など協力隊が行ってきた活動は、農業研修、農家（高齢者）へ

の農業支援、高齢者宅の雑草処理など生活支援、札幌市内イベントへの参加などで、町内イベントでは自主的な活動にも取り組んできました。

8人が地元に着

協力隊の任期は2年間。10名はすでに任務を終えています。8人が、そのうち8人が地元に着任しました。ラーメン店や整体院の経営、地元企業や社会福祉施設への就職などです。地元で生産されるトマトやそばを使った特産品「そばの実トマトソース」を開発し、会社を立ち上げた橋口とも子さんは「地域の人のつながりができ、助けてもらっている。特産加工品の開発・販売をするのであれば、定着するまで時間がかかることを念頭に」



元協力隊の橋口さん(右)と渥美さん

と指摘しました。

町内中心部にある郷の駅のなかでラーメン店の営業や特産品が販売されています。

24年度からは第2期協力隊として3名を採用。これも任期は2年。高齢者福祉対策を専門に介護予防や高齢者支援に関する業務を行いました。このうち2名が町内に残り、渥美さんは高齢者福祉対策部署の町職員となっています。

全道議員研修会が開催

北海道町村議会議長会主催による全道議員研修会が7月4日、札幌コンベンションセンターで行われました。

研修会では、法政大学法学部教授の廣瀬克哉氏、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏の講演が行われました。



郷の駅「ホッときもべつ」